

退院前情報共有チェックリスト の活用促進に向けて

—退院前情報共有チェックリストを使用した—事例—

令和3年10月20日（水）

つくば双愛病院 退院支援看護師 大石嘉子

つくば双愛居宅介護支援事業所 倉林奈津絵

1. 事例紹介

S氏 70歳代 男性（独身）

病名：急性腎盂腎炎 廃用症候群

既往：8年前 交通外傷 脳挫傷後遺症（外傷性くも膜下出血）

1年前 高血圧 逆流性食道炎

キーパーソン：本人の妹

介護保険：要介護1

利用サービス：デイサービス週3回、ショートステイ適宜

【入院前】

弟家族の敷地内で独り暮らし。ADLほぼ自立だが、口腔ケアや整容は促しが必要。服薬拒否あり。

【入院～退院までの経過】

デイサービスの迎えに行くと、「2日前から調子が悪い」と訴え、腹痛、38.0℃発熱あり当院受診し上記診断で入院。

入院後抗生剤治療開始。4日後からリハビリ開始。症状軽快に伴い、カンファレンス実施（※①）。

翌日ケアマネジャーから本人へ退院先的意思確認。通いなれたデイサービスがある施設へのロングショートを選択。

退院前日、施設からの調査とともに再度カンファレンス実施（※②）し、翌日退院となった。

II. カンファレンスの実際

※① 退院前情報共有チェックリスト使用あり

参加者：キーパーソン（妹）、主治医、CM、SW、PT、病棟師長

結果：項目に沿って話し合いを進め、30分で終了
情報の共有ができた

名前、チェックリスト記載欄が狭く、書きづらかった

※② 退院前情報共有チェックリスト使用なし（院内書式使用）

参加者：キーパーソン（妹）、主治医、CM、SW、施設職員、病棟師長

結果：※①結果、本人の意思をふまえ、現状確認と退院後の留意点について検討、合意した

III-1. 振り返り

退院前情報共有チェックリスト未使用時との比較

<退院前カンファレンス時>

- ・ 確認項目が明確なので、情報の共有がしやすかった
- ・ これまでは、カルテを見てその場で答えていたが、事前に情報を纏めておくことでスムーズに話し合いができた
- ・ 事前に準備し臨んだため、何を聞かれるのだろうかという構えないで済んだ

III-2. 振り返り

<全体を通して>

- ・ 1回目のカンファレンスを実施することで足りない情報がわかり確認ができたので、2回目のカンファレンスがスムーズに行えた
- ・ 「本人の希望」の項目があったため、介護者や支援者の意見が優先されそうな場合でも、「本人の希望」を確認し、進めることができた